

神津島まるごとプラネタリウム

神津島 星空 BOOK

東京の
星降る島へ
ようこそ!

星空の旅お役立ちガイドブック



NPO法人 神津島観光協会

〒100-0601 東京都神津島村 37-2

Tel 04992-8-0321 Fax 04992-8-0323

<https://kozushima.com>

デザイン/木村奈緒子 (PORT) 構成・文/景山えりか
写真/藤井智久 (表紙)、覺正恒彦 (P2-3) イラスト/榎本直哉
企画・発行/NPO 法人 神津島観光協会

神津島の座標にあわせた
オリジナル星座早見盤が
あるよ! 観光協会に
問い合わせせてね☆彡



神津島観光協会
マスコットキャラクター
「かんむりん」



東京の 星降る島へ

東京の空は星が見えない——

そんなふうに思っていないませんか？

確かに、高層ビルがひしめく都心では

満天の星を見ることは難しいでしょう。

でも、都会のネオンがとどかない

暗い夜空が広がる場所があるのです。

そこは、東京の「神津島」。

都心から南へ約180km、

伊豆諸島の真ん中あたりに位置している
小さな島です。

集落の周辺以外はほとんど外灯がなく、

夜になると空は星で埋め尽くされます。

神代の世、伊豆諸島がつくられたとき、

命の源である水の配分を決めるため

各島の神が集ったといわれる神津島。

その神々も見たであろう美しい星空を

現代を生きる私たちが見られる奇跡が

ここにはあります。

芽吹きの香り立つ春、

潮風が心地よい夏、

清々しさがあふれる秋、

凜とした西風が吹く冬。

季節ごとの夜気に身を包まれながら

見上げる星空は、

神津島ならではの感動がいっぱいです。

星たちが天からこぼれ落ちてきそうな、

まさに島がまるごとプラネタリウム。


さあ、東京の星降る島を体験してください。

ここがオススメ!


星空スポット紹介

島の星空は、どこで見ても息をのむ美しさ！
場所によって風景や空気の違いが楽しめます。


赤崎遊歩道

本ページでご紹介しているスポットの中で、いちばん暗いのがここ。足元が見えないほど真っ暗なので懐中電灯を忘れずに。
／まっちゃんれセンターより車で10分 


よたね広場

集落から気軽に徒歩で行けるので、夕食後の散歩にオススメ。レジャーシートを敷いて、寝転びながら見るのが最高です。
／まっちゃんれセンターより徒歩20分 

ヘリポート

今は利用されていないヘリポートの跡地。そのため周辺には民家がなく、空は広々。静かにしっとり楽しみたいカップルに◎。
／まっちゃんれセンターより徒歩20分 

三浦湾展望台

南の水平線が望めるので季節の星座観察に最適。真冬には、水平線ギリギリに南天の星「カノープス」が見られることも！
／まっちゃんれセンターより車で8分 



知っておこう!

シンボルと流星群

星の並び(シンボル)や流星群の時期がわかると、星空観賞がぐんと楽しくなります。

3大流星群

1月 しぶんぎ座流星群

毎年1月4日前後に活動のピークを迎えます。流星の出現数が年によって変化しやすく、当たりはずれがあります。

8月 ペルセウス座流星群

毎年8月12日～13日頃が活動のピーク。明るい流星が多く、見ごたえ満点！夏休みの観察にうってつけです。

12月 ふたご座流星群

毎年12月14日前後が活動のピークです。安定して多くの流星が出現し、年間最大の流星群とっていいでしょう。

季節のシンボル

春 春の大曲線

北斗七星の柄の先端から、うしかい座のアルクトゥールス、おとめ座のスピカを通して、からす座までの巨大なカーブです。

夏 夏の大三角

こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブをつなぐと、ショートケーキのような三角形になります。

秋 秋の四辺形

明るい星が少ない秋ですが、南の空高くに4つの星が作る大きな四角形が現れます。ペガサス座とアンドロメダ座の星です。

冬 冬の大三角

オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンを結び、夜空に正三角形ができあがります。

あると便利!

星空観察グッズ

星空の下で過ごす時間をもっと快適にするために、さまざまなグッズを活用しましょう。

双眼鏡

子どもや女性でも手軽に持ち運べて操作も簡単。片眼で見る望遠鏡と違って両眼で見るとストレスを感じにくいところが◎。



星座早見盤

何月何日の何時頃、どの方位に、どんな星座が見えるのかを知ることができます。お目当ての星座を探すときに便利です。



懐中電灯

暗い中で星座早見盤を使ったり、物を探したりするときの必須アイテム。まぶしさを感じにくい赤い光が理想的です。



防寒具

真夏の暑い夜以外は、防寒対策を。とくに冬の神津島は西風が強いので、ストールや使い捨てカイロを持参するのがオススメ。



温かい飲み物

星空の下で冷えた体を温め、気分をホッとさせてくれます。キャンディやチョコなどの甘い物があると会話がはずみます。



虫よけ

都会にくらべて、島の蚊は強力です！晩春から秋にかけては、虫よけスプレーをバッグにしのばせておくとう安心です。



昼だって
魅力いっぱい!

島の見どころ BEST3

表情豊かな山の自然と海の透明感は、ここが東京であることを忘れてしまう美しさ。ぜひ体験してください!

No.3 秩父山



標高約280mと低山ながらも、この景色には大満足!



コの字型に祀られた34体の観音様

雄大な景色が望める ハイキングの名所

整備された登山道があり、登山口から片道40分ほどで登れる秩父山は、ハイキングに◎。山頂には展望台のほかに、秩父三十四の札所を集めた観音霊場があります。近年まで、神津島では死者の葬儀をすませると、その日のうちに登山してお詣りする習わしが続けられていました。そのため島民にとっては信仰の山でもあります。

二十三夜待 今も残る、月の出を待った人びとの証



日本には古くから、特定の形をした月が出てくるのを待つ「月待(つきまち)」という風習(民間信仰)がありました。昔、神津島で盛んだったのは「二十三夜待」です。二十三夜の月は、島民から「三夜様」と呼ばれて親しまれていました。月の相は下弦の頃で、真夜中に東の空に昇ってきます。一説によると、旧暦1月23日の

夜から翌日の朝方にかけて月待行事が行われていたのだそう。また、旅や漁の安全や、安産の御利益があるといわれ、祈願したとも伝えられています。その証として、今も残っているのが月待塔と呼ばれる石塔です。秩父山山頂、溝響寺近くの石段の上、開発センター上の横道の3か所にあり、当時の様子を感じることができます。

No.1 天上山

島の中央に鎮座する 聖なる神々の山

伊豆諸島の神々が、限りある水の分配を決めるために集ったという天上山は、「花の百名山」にも選ばれた島の顔。四季折々の植物を楽しみながら登り切った山頂には、360度の絶景パノラマが広がります。運がよければ富士山まで見通せることも! 何度でも登りたくなる、自然の魅力にあふれた山です。

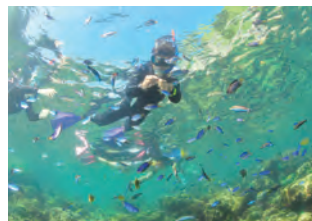


標高は約572m。ハート型の池や白砂の砂漠など、名所がたくさんあります



高木が少なく、視界はつねに良好!

No.2 赤崎 遊歩道



ぼっかりと浮かんで、海をゆっくり満喫

熱帯魚たちと泳げる 海中散歩のスポット

全長約500mもある木製の遊歩道。夏休み中は、途中にある飛び込み台に子どもから大人まで並んで大変なにぎわいに。遊歩道の下は波の少ない入り江で、絶好のシュノーケリングスポットです。水質も透明度も高く、色とりどりの魚たちに囲まれながら、のんびりと海中散歩が楽しめます。



透き通った海とさわやかな潮風。散歩するだけで気持ちいい遊歩道